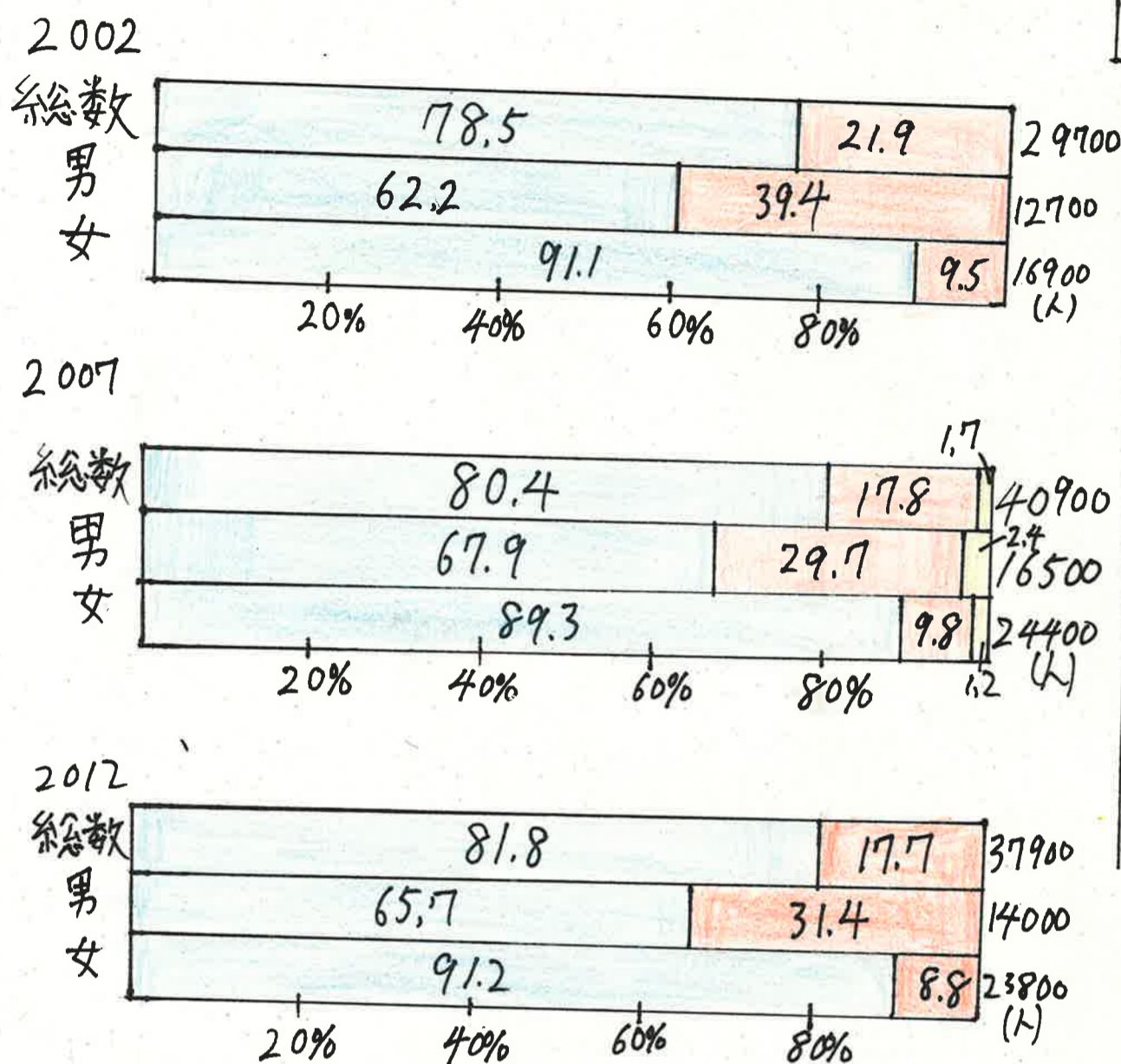


年間で就業者が働いている日数と週間就業時間別の有業者の数

図1 就業日数が年間200日未満の有業者数(2002, 2007, 2012) (町田市)



15~34時間 35~59時間 60時間以上

※すべての図において有知

図1からは就業日数が年間200日未満の有業者数の週間就業時間別の人数が分かる。2002年から2007年にかけて有業者数の総数は増えているが2012年になると減っている。だが2002年と2012年を比べると確実に増えていることが分かる。2002年~2012年にかけて、15~34時間の有業者数の割合が増えている。また35~59時間の割合が増えていることが分かる。年間200日未満の有業者の週間就業時間が年々短くなっていることが分かる。男性の割合は総数、女性の割合と比べて35~59時間の割合が多くなり、15~34時間の割合が少なくなる。女性の割合は総数、男性の割合と比べて、圧倒的に15~34時間の割合が多くなり、35~59時間の割合が少なくなる。

図2 就業日数が年間200~249日の有業者数(2002, 2007, 2012) (町田市)

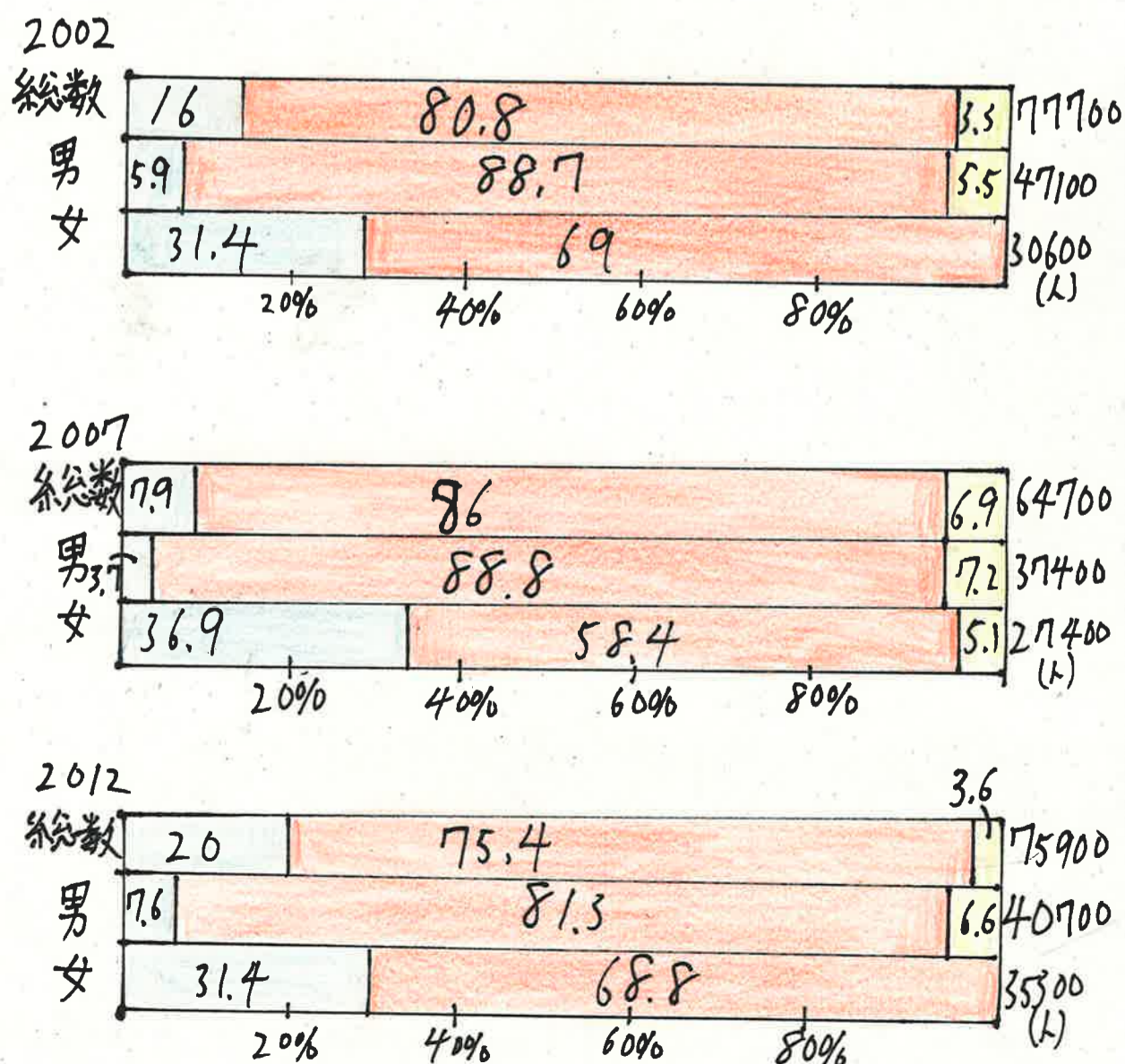
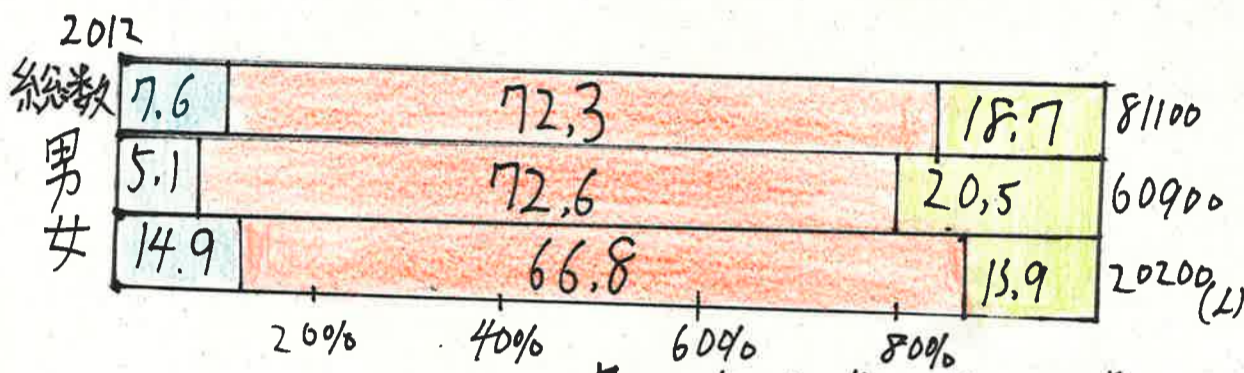
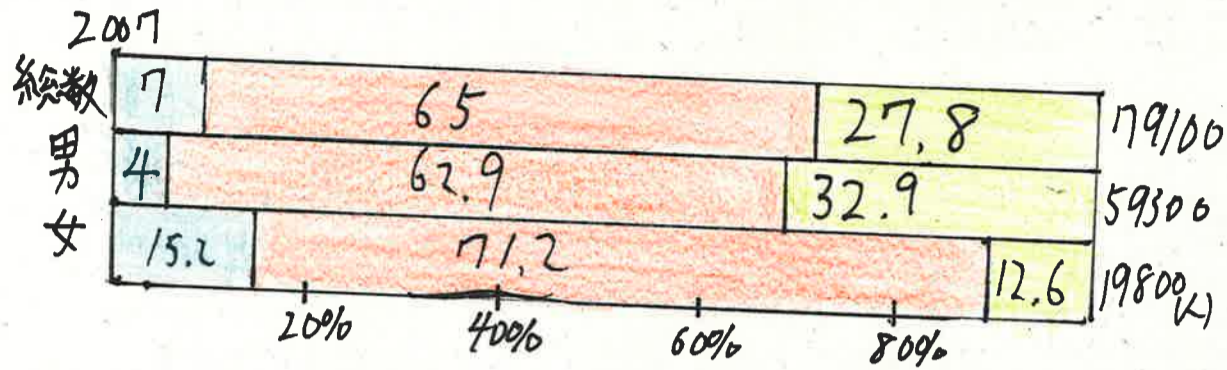
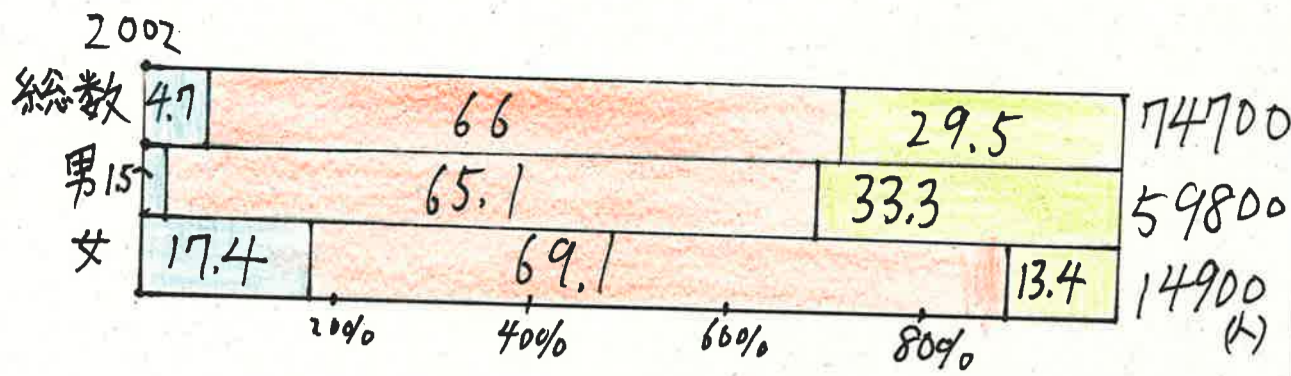


図2は図1に比べ週間就業時間が35~59時間の割合が多くなり、15~34時間の割合が少なくなる。しかし2002年と2012年を比べると総数、男性、女性すべての35~59時間の割合が増えている。2007年の60時間以上の割合が2002, 2012年と比べて一番高い。男性の割合は総数、女性の割合と比べて15~34時間の割合が非常に少なく、35時間以上の割合が多くなる。女性の割合は総数、男性の割合と比べて15~34時間の割合が多くなり、35時間以上の割合が少なくなる。年間200~249日の有業者数は男性は35時間以上の割合が多くなり、長時間就業している割合が多くなる。女性には15~34時間の割合が多くなり、短時間就業している人が他と比べて多いことが分かった。

図3 就業日数が250以上の有業者数と週間就業時間(2002, 2007, 2012)(町田市)



資料 就業構造基本調査

図1, 図2に比べ図3は週に60時間以上働かしている割合が一番多く35~59時間の割合が一番少ない。2002年~2012年にかけて総数, 男性の60時間以上の割合が減少して15~34時間の割合は増えている。2007年は他と比べて35~59, 60時間以上の割合が多い。

全体のまとめ
就業日数が増えるのに週間就業時間も増えていることが分かった。
2007年は全体的に日数関係なく週間就業時間が多い。